



あけましておめでとうございます



新春を迎え みなさまのご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます。

今年は曜日並びの関係で、いつもより短めのお休みとなりましたが、子ども達を囲んで家族が集い、楽しいひとときをお過ごしになられたことと思います。初詣やお正月のあそび、お出かけなど、子どもたちの「あのね…!!」の話を聞くのが今から楽しみです。

今年度も早いもので残すところあと3ヶ月となりました。1月は「行く」2月は「逃げる」3月は「去る」という言葉があるように、これから4月まではあっという間に過ぎてしまいがちです。だからこそ、一日一日を大切に、子どもたち一人一人の成長をしっかりと見守りながら保育を行っていきたいと思います。今年もよろしくお祈りします。

2009/12/26 SUN太お楽しみ会

年末のお忙しい中、多数の方がご来場頂き本当にありがとうございました。おかげさまで大勢の方に見守られながら、無事に楽しく終了することが出来ました。

後日アンケートを実施いたしますので、ご協力の程よろしくお祈りします。

保育展での子どもたちの発表をホームページで公開しています。ぜひご覧ください。視聴環境のない方は、保育園1階のパソコンをご利用ください。



SUN太お楽しみ会の写真(プロカメラマン撮影)は、1月下旬頃より掲示する予定です。お楽しみに!!

1月の行事予定

- 6日(水) 避難訓練
- 7~18日 利用者調査
- 14日(木) 新年度入園・出張受付
[平成22年度入園申請書類受付]
午後4時~8時うさぎ組で実施
- 13日(水) 調理保育(らいおん)
- 14日(木) 調理保育(ばんだ)
- 15日(金) 職員園内研修
- 18~22日 身体測定
- 20日(水) 0歳児健診
- 26日(火) 体育指導
(ばんだ・くま・らいおん)
- 27日(水) お誕生会

姿勢はだいじょうぶ?

- 寒くなると、ポケットに手を入れて歩いたり、肩を丸めて前かがみで歩いたり、姿勢の悪さが気になります。姿勢が悪いとけがをしたり、体の発育に影響が出てきます。思いきり体を動かして骨や筋肉を鍛えたり、たくさん歩くなどして、よい姿勢が保てるようにしましょう。
- おうちの方と一っしょに、リラックスしたよい姿勢を心がけてみましょう。
- ※リラックスしたよい姿勢…全身の力を抜いて、頭のてっぺんを上へ伸ばしたような姿勢。



言葉の力を伸ばすのは子どもの好奇心

言葉が話せるようになると、子どもの関心は文字に向かいます。このころの子どもは、「なぜ?」でいっぱいです。好奇心の問いかげには、勉強ではなく、楽しさで応えたいものです。



言葉の成長は急がせなくても大丈夫

小学校に入学するまでに、ほとんどの子どもはひらがなの読み書きができるとあって、文字の習得を急ぐお母さんもいます。しかし、子どもは元来、好奇心旺盛なものです。周りが急がせなくても、次第に文字を書いたり、読んだりすることに興味を示すようになります。

文字を教えよう、読み書きさせようと思わず、絵本をいっしょに読んだり、子どもが「自分の名前を書きたい」「この字はなあに?」と言ったときに教えるなど、子どもが楽しく文字を覚える手伝いをしてください。

ともに考え、ともに喜んで

一つ言葉が読めるようになったら、つい次も……と進めたいのが親心でしょう。でも、まずは「読めたこと」、それを子どもといっしょに喜んでください。子どもの中に手ごたえ、達成感があれば、次の課題に自分で向かっていけるものです。

読み聞かせは「読ませる」ためではない

文字に興味が出てきたら、一緒に絵本を読むのもよいでしょう。ただし、読み聞かせは文字を学習させるためではありません。絵本そのものを、いっしょに楽しみましょう。

- 絵や言葉の内容とともに、お母さんが読む調子も、言葉の理解を助けます。自分も楽しんで読むと、言葉の雰囲気が出るでしょう
- 子どもなりに独自のストーリーをつくったり、物語の展開に疑問をもったりします。文字の読み書きにこだわりすぎると、子どもは物語を楽しむ余裕がなくなってしまいます。
- お母さんが物語をどんなふうと感じているか、子どもはお母さんの表情からも感じとります。「つまらないけれどためになる(であろう)本」を読むよりも、何でもいろいろ試してみましよう。



読みたい、書きたいを手助けする

子どもの身の回りには、文字がたくさんあります。自分なりに文字の読み方を推理したり、読めない文字を知る楽しみを手助けしましょう。

- 自分の名前や好きなものの文字を読んだり、保育園で自分の名前を書いたりなど、子どもが自発的に文字を学ぶきっかけはたくさんあります。
- 「興味を持ったときに教え時」というのは、この時期にはまだもう少し待つ。時にはともに考え、発見の喜び、達成感を存分に味わわせてあげましょう。

子どもはどうして鏡文字を書くの?

文字を覚え始めた子どもは、時に鏡文字や、一部が左右反転した文字を書きます。これは、私たちの目のしくみに原因があります。水晶体というレンズに当たる部分は、外の世界を屈折して網膜に映し出すため、網膜には反転した世界が映ります。そこで、脳ではこの映像をもう一度反転して認識しています。文字を学び始めた子どもは、まだ文字を見慣れていないために、この脳の処理に失敗することがあるのです。

ちねみ

テレビは言葉の力を伸ばすか?

言葉の洪水に巻き込まれる

言葉を早く、たくさん覚えさせようと、二歳くらいの子どものばかりか生まれたばかりの赤ちゃんにまでテレビを見せるお母さんが増えています。

たしかに、たくさん言葉に触れば、赤ちゃんが知っている言葉の数は増えるかもしれません。

しかし、言葉を使う力とテレビの効果は比例しません。言葉はあくまでも対話に使うもの。語りかけるだけで話を聞いてくれないテレビには、赤ちゃんは話しかけようという気は起こらないはず。

テレビばかり見ていて周囲との対話が少なかったり、会話ができないなどで、診察に訪れるケースも決して少なくありません。

時々、時間を決めて楽しんで

教育目的ではなくても、テレビとのつき合い方はむずかしいものです。

家事、仕事に忙しいときにはテレビに子守を頼みたいというときも多々あるでしょう。とはいえ、テレビを無制限に見せていると、子どもがテレビの前から離れなくなってしまう場合もあります。

子どもが小さいときには見る番組をあらかじめ決めておく、ある程度大きくなったら「一週間に〇時間」と決めて、その内訳を自分で配分させるなど、テレビとの上手なつき合い方を考えていきたいものです。また、子どもがテレビと上手につき合えるようになるためには、周囲の大人が、テレビとのつき合い方を見直す必要があります。

